

「挑戦」なくして、高齢化社会の克服なし

山口和範 (H20ファイナンス研究科修了)

地元のロータリークラブ(東松山RC)に所属している。入会してから彼は14年。楽しいこともあれば、足引っ張りもあり、修養の場と思っている。そんなうちのRCの平均年齢は65歳。日本全体が46歳(2015国勢調査)なので、高齢化先進国のさらに上に行く高齢化組織である。そんな高齢化した社会ではどんなことが起こるか？ 動かない、無責任、変化を嫌う…その結果若い人が苦労する、マンネリ化、会員減少…もちろん協力的な先輩も多いが、残念ながら3分の1は傍観者となっている。



そこで私が仕掛けているのが「挑戦」。既存会員が動かずしてクラブの活性化なしと考え、様々な方策を実践。ミッション・ステートメント例会、浴衣で花火大会、ロータリー川柳、ハロウィン×ワイン例会、第九をドイツ語で唄うクリスマス、平成を振り返る新年会、東京RC訪問も兼ねた旅行等。ネグレクトする会員もいたが、大半の会員がこの企画に乗ってくれて自分のアイデアや意見を発表し、人となりが見え、大いに楽しむことができた。これぞ「活性化」である！

今年はラグビーW杯、来年は東京オリ・パラが開催されるが、「挑戦」する人間は美しい。人も組織も国も、挑戦なくして成長なし。傍観者となるのではなく、皆が主体的に行動し、いつまでも挑戦する社会であってほしい。鑑定業界も！